

スポーツ

SUMOを世界へ 19、20日に台湾巡業 来夏はハワイ

大相撲の台湾巡業が19、20日、台北市で行われる。外国政府の招きに応じて協会が主催する公演ではなく、現地の勸進元が主催する巡業の実現は13年ぶりで、台湾開催は公演、巡業を含め戦後初。来年6月には米ハワイ巡業が行われる。世界を見据えた角界の取り組みが活発化している。

海外公演は平成17年10月に米ラスベガスで行われているが、海外巡業は5年6月の米サンノゼ・ハワイ巡業以来。台湾では日本の統治下にあった戦前に場所も開かれているが、戦後の現地興行は初めてとなる。

台湾巡業は、日本企業の誘いを受けた現地企業が勸進元に名乗りを上げたことで実現。勸進元となる現地テレビ局関係者は「大相撲は台湾でも衛星放送で生中継されていて大勢のファンがいる」と話す。約1万人を収容する会場の入場券の売れ行きは土俵周りがほぼ完売で、全体的にも上々だという。

台湾巡業の開催にこぎつけた協会は来年のハワイ巡業以外にも、7月の名古屋場所で横綱朝青龍や大関白鵬ら関取10人を輩出したモンゴルでの巡業開催を模索している。部屋単位でも名古屋場所前に朝青龍が在籍する高砂部屋がモンゴル合宿を実施。ブルガリア出身の琴欧州が在籍する佐渡ヶ嶽部屋もイスラエルで公演するなど海外での活動が目立っている。

国内の地方巡業は4年の94日間をピークに減少を続け、昨年は協会全体で巡業を行うようになった昭和33年以降では最少の15日まで落ち込んだ。北の湖理事長(元横綱北の湖)が「巡業は相撲の普及・発展のための大きな柱」と位置づけているように、巡業拡充は協会の最重要課題。海外巡業の増加は、地方巡業の増加と並ぶ巡業改革の一環でもある。

名古屋場所で外国人関取は史上最多の16人を数えた。外国出身力士の躍進とともに、海外での相撲人気は高まっている。実力だけではなく人気でも日本人力士をしのぎつつある外国出身力士の存在は角界にとって不可欠となっており、巡業の売り込みを含めた協会の世界戦略は今後も広がりを見せそうだ。

平成以降の海外での公演と巡業

2・6 ブラジル公演(サンパウロ)

- 3・10 イギリス公演(ロンドン)
- 4・6 スペイン・ドイツ巡業(マドリード、デュッセルドルフ)
- 5・2 香港巡業
 - 6 米国巡業(サンノゼ、ハワイ)
- 7・10 オーストリア・フランス公演(ウィーン、パリ)
- 9・6 豪州公演(メルボルン、シドニー)
- 10・6 カナダ公演(バンクーバー)
- 16・2 韓国公演(ソウル、プサン)
 - 6 中国公演(北京、上海)
- 17・10 米国公演(ラスベガス)

【2006/08/16 東京朝刊から】

<http://www.sankei.co.jp/news/060816/spo060.htm>

朝青龍らが台湾へ出発 13年ぶりの海外巡業

大相撲で戦後初となる台湾巡業に参加する横綱朝青龍、大関千代大海など幕内力士ら一行が17日午前、成田空港発の航空機で出発した。大関白鵬、琴欧州らは午後の別便で出発。

海外での巡業開催は1993年6月のサンノゼ、ハワイ以来13年ぶり。一行は19、20日に台北ドームでトーナメント戦を行い、21日に帰国する予定。幕内白露山、若の里、武雄山はけがのため参加しない。

(2006年08月17日 11時15分)

<http://www.tokyo-np.co.jp/flash/2006081701000658.html>